

# 豊田市(北陸・中部ブロック)

【2期 計画期間 25年4月～30年3月】

・明治～：養蚕・製糸業を中心に発展。  
・昭和～：生糸の需要減に伴い町も衰退。再生をめざし、自動車産業の積極的な誘致に取り組む。その後自動車産業とともに町も発展。我が国を代表する産業拠点に成長。

## 【1期計画の概要】

○緑の環境都市軸(スタジアムアベニュー)の創造を将来像とし、活力とにぎわいの創出、公共交通と自動車交通が調和した交通体系の実現、環境に配慮したまちづくりを図るため、1期計画を策定(H20～H24年度)

## 【中心市街地の変化】

○商業者による集客イベントや空き店舗の活用により、夜間の歩行者通行量が増加。空き店舗数の増加も歯止めがかかった。

○景気低迷によりオフィスの撤退などが見られたが、駐車場利用台数、鉄道乗降客数は堅調。その一方で、歩行者通行量は減少しており、来街しているが回遊していない状況。

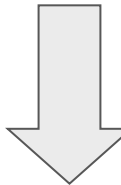


## 【目指す中心市街地像】

○緑の環境都市軸(スタジアムアベニュー)の創造  
⇒緑が豊富で、歩きたくなる、回遊したくなるまち。

## 【第1期計画の目標指標】

目標	指標	1期基準値	最新値	目標値(H24)
活力とにぎわいの創出	平日歩行者通行量	25,788人 (H19)	25,568人 (H23)	30,500人
公共交通と自動車交通が調和した交通体系の実現	鉄道駅1日乗降客数	36,477人 (H18)	40,095人 (H23)	45,300人
環境に配慮したまちづくり	エコシール年間受取枚数	400,000枚 (H17)	1,547,000枚 (H24)	500,000枚



第1期の目標である「活力、交通、環境」の3つ指標のうち、「交通」と「環境」の2指標については数値が改善された。

第2期では、第1期で伸び悩んだ「活力」の指標向上に焦点を絞る。

## 【第2期計画の目標指標】

目標	指標	現況値(H23)	目標値(H29)
活力とにぎわいの創出	平日歩行者通行量※	72,230人	73,820人
	休日歩行者通行量※	63,094人	65,970人
	居住人口	12,715人	13,140人

※より詳細なデータを収集するため、計測地点を第1期:7地点→第2期:16地点に増設

## <第2期計画の基本コンセプト>

「まちなか・魅力・再発見」⇒まちなかの「既存資源」を最大限に活かすことによる中心市街地の魅力づくりを目指す。  
「未来へ・つなぐ・まちづくり」⇒まちの持続的な発展を図るため、再開発などの都市基盤整備を推進する。

# 豊田市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## まちなか 魅力 再発見

①豊田市駅前通り北地区市街地再開発事業  
従来不足していた**アミューズメント機能**を導入するほか、集合住宅、福祉施設を整備し、**来街者と居住人口の増加を図る。**



北地区再開発完成イメージ

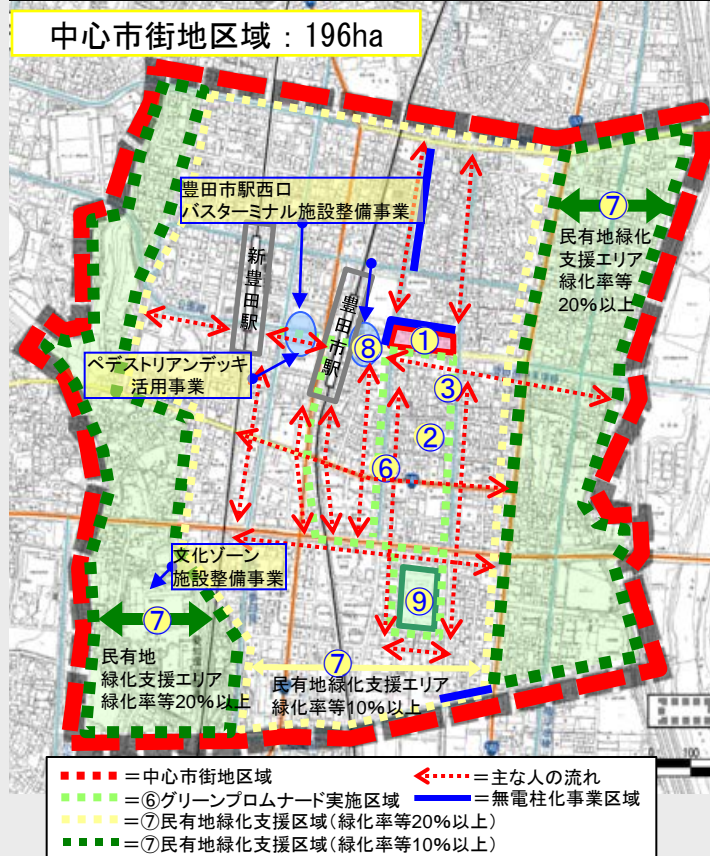
にしきらまち  
②西桜町地区商業まちづくり推進事業  
たきょうせん  
③竹生線沿線商業魅力化推進事業  
空き店舗を活用して魅力ある店舗を誘致し、**街のにぎわい創出と商業活性化を図る。**



空き店舗活用のイメージ

## 活力とにぎわいの創出

中心市街地領域：196ha



## 未来へ つなぐ まちづくり

⑥グリーンプロムナード事業  
市内の主要道路の緑化を進め、緑が連続する回遊空間を創出し、「**歩きたくなるまちづくり**」を推進する。



⑦民有地緑化支援事業  
民有地の緑化に補助金を交付。**緑が連続するまちなみを創出する。**

⑧豊田市駅東口駅前広場整備事業  
駅前広場完成イメージ  
バス乗降場等が配置されている駅前広場を、**イベント広場として利用できる空間に再整備するための計画を策定する。**



⑨低炭素社会モデル地区整備事業  
環境モデル都市として、「**低炭素の見える化**」を図るため、最新のスマートハウス、低炭素社会実現への取組が実感できるパビリオン、産業交流拠点施設を整備する。



とよたEcoful Town完成イメージ